

社会科学習指導案

神辺町立御野小学校 指導者 岡田 大策

1. 学 年 第6学年2組 27名

2. 単元名 明治維新から世界の中の日本へ「新政府による政治」

3. 単元設定の理由

- 本小単元「新政府による政治」は、倒幕をなし終えた維新の志士たちが明治の新政府を立ち上げ、近代国家の成立に向けて様々な改革に取り組む様子とそれに伴う世の中の変化を扱った単元である。その新政府がまず手付けたのが天皇を中心とする中央集権国家を築くことであった。版籍奉還や廃藩置県・四民平等等の政策を実施することで旧体制を完全に崩壊させ、中央政府による支配体制を整えていったのである。また今後の日本の行く末を見定めるために岩倉遣欧使節団を欧米視察に赴いた大久保利通、木戸孝允らは、そこで発展し強大化した資本主義国家姿をまざまざと見せ付けられることになる。そして日本を近代的な資本主義国家に築き上げる必要性を痛感して帰国した大久保らは、国力の要である「軍事力」と「経済力」の充実に向けて「富国強兵」「殖産興業」をスローガンに掲げて軍事と経済を重視した国づくりへと突き進んでいくのである。しかし、こうした明治政府の一方的な改革に対して、国民からの反発も徐々に激しさを増していくことになる。当初、西郷隆盛の西南戦争に代表されるように武力によって政府の施策に抵抗しようとした動きは、やがて言論によって政治改革を求めていこうとする自由民権運動へとその形を変えていった。政府は規制と弾圧という形でこうした民衆の動きを押さえ込もうとしたが、一度動き始めた民主化への波をとめることはできず、ついには憲法の制定、国会開設へとつながっていくのである。本単元は、明治政府が、国家の近代化に向けて様々な改革を推進していく中で、人々の暮らしや考え方がどのように変化していったのか、また日本にとって「明治維新」とは何だったのかを考えるのに適した単元であると考ええる。
- 本学級の児童は、問題解決的な学習に取り組み始めてまだ4ヶ月であり、事象の中から疑問をつかんで学習課題を設定していくという学習スタイルが十分定着していない。したがって課題設定においてもまだまだ教師主導の部分があるが、自分たちで「はてな？」を見つけることには興味を持って取り組めるようになった。また社会科において重要視される「調べて表現する活動」についても、教科書、資料集、参考書、インターネットなどを活用して情報収集したり、調べたことをノートなどにまとめたりする活動に対しては意欲的な児童が多い。また授業の終末部分では、記述式による「学習のまとめ」を行うことを習慣化してきており、大部分の児童が本時の学習で何がわかったのかを文章化してまとめることができるようになってきている。しかし、調べたことをそのまま発言することには意欲的だが、それらを結び付けて考える「思考力」の部分になると自分の考えが持てなかったり、持ててもみんなの前で発言できなかったりする児童が多く、大切な思考の部分が盛り上がらないことが大きな課題である。
- 本単元の指導に当たっては、明治維新や文明開化等の歴史的な事象を網羅的に取り上げるのではなく、わが国の近代化や国際的な地位の向上にとって中心的な役割を果たした**歴史上の人物に着目**させ、その人物の働きを学習することを通して明治時代の特色を具体的に把握させるようにしていきたい。その際、噴き出しに考えを書かせたり**記述式のまとめ**を行ったりすることで思考を促したり、自分の考えや判断を整理する力を育成していきたいと考える。

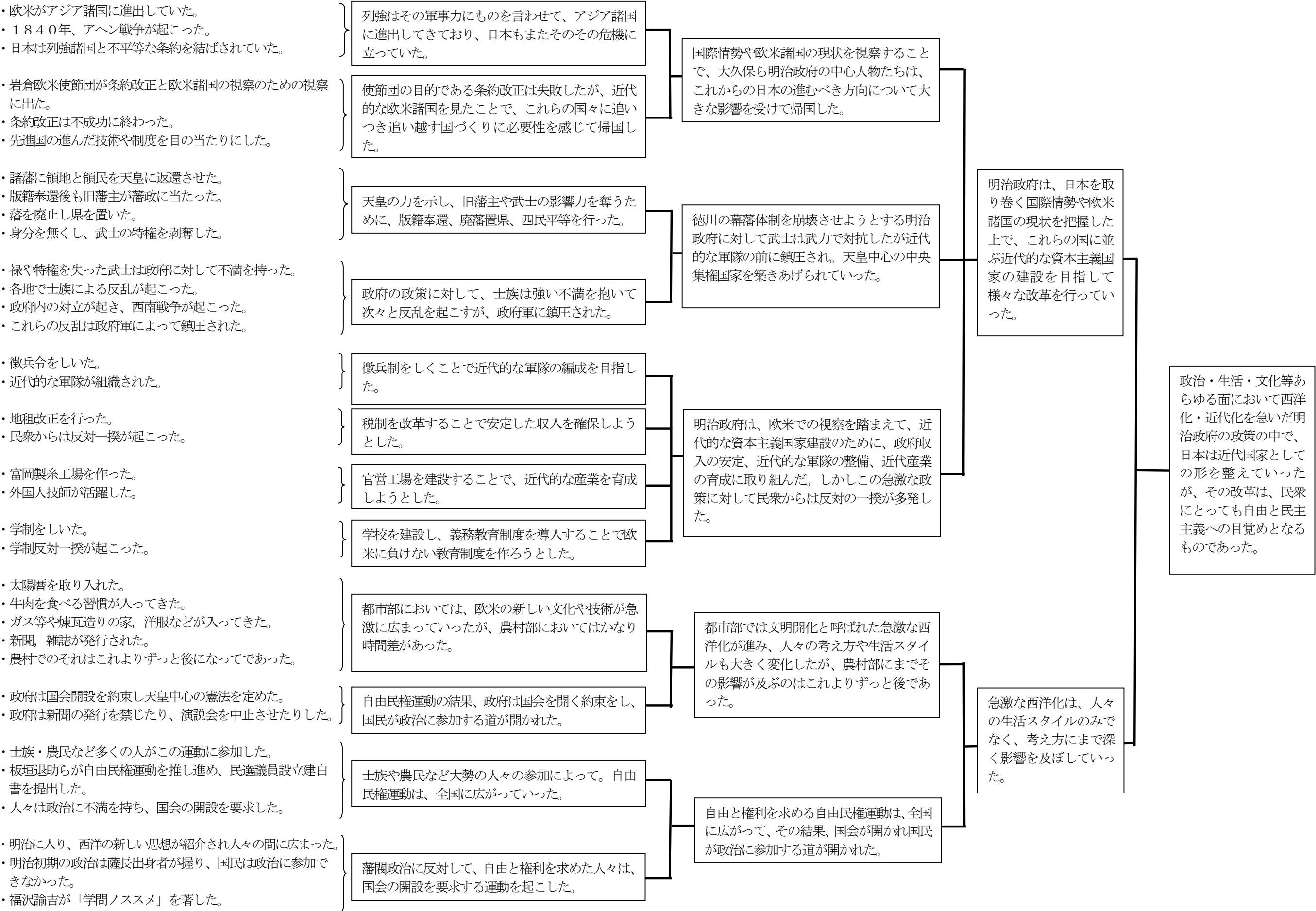
4. 単元の目標

- 明治の新しい世の中の様子や人物の働きに関心を持ち、わが国の近代化や国際的地位の向上の過程について進んでとらえようすることができる。**【関心・意欲・態度】**
- わが国が近代国家としての形態を整えていった様子や問題点について、人物の働きや国内の様子をもとに考え、判断することができる。**【思考・判断】**
- 明治維新や文明開化、大日本帝国憲法の発布などについて人物の働きを中心に調べたり、表現したりすることができる。**【技能・表現】**
- 明治政府が「富国強兵」「殖産興業」をスローガンに、欧米の技術や文化・制度を導入することで日本の近代化を急ごうとしていたことをとらえることができる。**【知識・理解】**

5. 単元の評価規準

ア社会的事象への 関心・意欲・態度	イ社会的な思考・判断	ウ観察・資料活用の 技能・表現	エ社会的事象についての 知識・理解
○調べたり気付いたりしたことの中から自分なりの学習課題を見つけることができる。 ○学習課題に対して意欲的に、粘り強く調べたりまとめたりすることができる	○明治政府による諸改革の中で世の中がどう変化し、人々がどう感じて生きていたのかについて資料や話し合いをもとに考えることができる。 ○新政府が行った諸改革について岩倉遣欧使節団の成果や国際情勢を踏まえた上で、その意図を考えることができる。 ○自由民権運動が民衆の間に広まっていった理由について考えることができる。	○資料から疑問や気付きを見つけることができる。 ○教科書、資料集等から文明開化や明治維新の様子について読み取り、ノートや模造紙等にわかりやすくまとめることができる。	○維新の志士たちがどのような思いをもってこの国の近代化に努力したかが理解できる ○憲法制定、国会開設に至った経緯を調べ、そこに民衆の意識の高まりがあったことが理解できる。

6. 知識の構造図



7. 単元指導計画（全8時間）

次数	時数	学習活動	評価規準				評価規準	評価方法
			関	思	技	知		
1次	1	・大久保利通の人物年表を作成し、それをもとに単元の学習課題を考える。			◎		・資料から疑問や気付きを見つけることができる。	発言 ノート
			○				・調べたり気付いたりしたことの中から自分なりの学習課題を見つけることができる。	発言 ノート
2次	2	・新しい時代になって武士はどうなったのか調べて話し合う。				◎	・大政奉還後、旧藩主や武士たちは廃藩置県・四民平等によって、禄や特権を奪われたことが分かる。	ノート
	3	・岩倉遣欧使節団について調べ、大久保たちが何のために欧米の視察に出かけたのか、使節団が海外で見たこと、感じたことを元に考える。		◎			・資料をもとに欧米視察によって使節団一行が感じたことについて考えることができる。	発言 ノート
	4	・帰国した大久保たちが、実際にどのような国づくりを行ったのか調べて話し合う。（本時）		◎			・新政府が行った諸改革についてその意図について考えることができる。	発言 ノート ふきだし
			○				・学習課題に対して意欲的に、粘り強く考えたりまとめたりすることができる	行動観察
	5	・明治になってから人々の生活がどのように変わったのかを調べて話し合う。		◎			・明治政府による諸改革の中で世の中がどう変化し、人々がどう感じて生きていたのかについて資料や話し合いをもとに考えることができる。	発言 ノート
						○	・教科書や資料集から文明開化について読み取ることができる。	発言 ノート
	6	・ともに改革をすすめてきたはずの大久保と西郷が西南戦争で戦わなければならなかった理由について調べて話し合う。		◎			・盟友であった大久保と西郷が戦った理由について資料をもとに考えることができる。	発言 ノート
	7	・自由民権運動と国会開設について調べ、人々が何を求めたのかについて話し合う。		◎			・天皇を中心にした中央集権国家において、自由民権運動が目指したものについて考えることができる。	発言 ノート
						○	・憲法制定、国会開設に至った経緯を調べ、そこに民衆の意識の高まりがあったことが理解できる。	発言 ノート
	8	・これまでの学習を振り返り、登場人物たちの関関図を作って、各人物の働きをまとめる。				◎	・維新の志士たちがどのような思いをもってこの国の近代化に努力したか理解できる。	発言 学習カード

8. 本時の学習

- (1) 本時の目標
 - ・明治新政府が「富国強兵」「殖産興業」のスローガンのもとに行った政治の諸改革について知り、それらの政策がどのような考えから出てきたものかについて考えることができる。
- (2) 評価規準の観点
 - ◎新政府が行った諸改革についてその意図について考えることができる。【思考・判断】
 - 学習課題に対して意欲的に、粘り強く考えたりまとめたりすることができる【行動観察】
- (3) 準備物

指導者・・・人物画(大久保、伊藤)、岩倉使節団の写真、ふき出しカード（各自に）

児童・・・調べた物をまとめたノートまたは制作物
- (4) 本時の展開

過程	学習活動・発問及び予想される反応	資料	学習への支援(○) 指導上の留意点(・)	評価基準
導入課題	①岩倉遣欧使節団の様子を簡単に想起させる。	・大久保、伊藤らの写真	・学習課題を確認する。	
	欧米視察から帰国後、大久保らはどのような政治を推し進めていったのでしょうか？			
	②大久保らの政治改革の意図を考えるための元となる事実を教科書や資料集、年表などから出し合う。 ○帰国後、大久保たちはどのような改革をおこなったのですか？			

中核課題	<table><tr><th>江戸時代</th><th>明治時代</th></tr><tr><td>各藩ごとに軍事力を持っていた。</td><td>徴兵令をしいて軍事力を整備した。</td></tr><tr><td>年貢を徴収</td><td>地租改正を行った。</td></tr><tr><td>工場や近代的な機械や産業はなかった。</td><td>殖産興業で官営工場を各地に作った。</td></tr><tr><td>寺子屋や藩校</td><td>全国に学校を作って義務教育にした。</td></tr><tr><td>憲法や国会はなかった。 将軍が決めた。</td><td>憲法を作り国会を開いた。</td></tr><tr><td>鎖国をしていた</td><td>欧米の文化や技術を取り入れた</td></tr></table>	江戸時代	明治時代	各藩ごとに軍事力を持っていた。	徴兵令をしいて軍事力を整備した。	年貢を徴収	地租改正を行った。	工場や近代的な機械や産業はなかった。	殖産興業で官営工場を各地に作った。	寺子屋や藩校	全国に学校を作って義務教育にした。	憲法や国会はなかった。 将軍が決めた。	憲法を作り国会を開いた。	鎖国をしていた	欧米の文化や技術を取り入れた			
	江戸時代	明治時代																
各藩ごとに軍事力を持っていた。	徴兵令をしいて軍事力を整備した。																	
年貢を徴収	地租改正を行った。																	
工場や近代的な機械や産業はなかった。	殖産興業で官営工場を各地に作った。																	
寺子屋や藩校	全国に学校を作って義務教育にした。																	
憲法や国会はなかった。 将軍が決めた。	憲法を作り国会を開いた。																	
鎖国をしていた	欧米の文化や技術を取り入れた																	
	これらの政治改革を通して、大久保らはどのような国をつくろうとしたのか？ ③明治政府が行った諸改革の意図を考える。 ○なぜこのような改革に力を入れたのだろうか？ ・徴兵制は欧米列強の侵略に対抗するために強い軍隊が必要だと考えたからだ。 ・軍隊にはお金がいるから地租改正を行ったのだろう。 ・日本が近代国家としての仕組みを整えて世界に認められる国家と成るため教育のレベルを高めたり，近代的な制度を取り入れたりしたのだろう。 ・遣欧使節が見てきたことから「富国強兵」の大切さを感じたから欧米に似た仕組みを取り入れたのだろう。 ・世界の強国の仲間入りをするためだ ・世界から遅れた国だと思われないためだ。 ・欧米から日本を守るため ④大久保の国作りに込めた思いを噴出しに書く。 ○大久保に国づくりにかけた思いを一言言ってもらおう。 ・外国に負けない国を作りたいかったんだ。 ・世界の中でも一流の国にしたかったんだ。 ・早く欧米に追いつきたかったんだ。	・岩倉遣欧使節団が見てきた欧米諸国の写真を提示することで日本と欧米の比較で捉えさせる。	○軍事力、経済力、技術力、教育力などの点において欧米諸国のレベルとの比較で考えさせる。 ○なぜ近代的な資本主義国家を築く必要があったのか考えさせる。 ・明治政府が軍事力に力を注いだ理由を岩倉使節団が清に立ち寄った事実からも考えさせる															
まとめる	⑤学習課題について，今日学習したことをもとにノートに自分の考えをまとめる（論述式） ○大久保たちがどのような国作りを目指していたのか今日の学習をもとに自分の考えを書きましょう。 ・現在の国際情勢の中で開国した日本を守るには「富国強兵」を押し進めるしかないと思うから軍隊や税の仕組みを整えることに力を入れたことがわかった。 ・欧米諸国並みの国力を付けて外国に負けない国になりたいと考えて欧米の制度や技術を一生懸命取り入れたことは当時としては当然だと思う。	・できるだけ多くの時間を保証する。	○自分の考えが書けない児童については、岩倉遣欧使節団が欧米諸国を歴訪した際に何を感じて帰国したかについて想起させる。	A 新政府が行った諸改革の意図や意義について岩倉遣欧使節団や当時の国際情勢と関連付けて考えることができる。 B 新政府が行った諸改革の意図や意義について自分の考えを書くことができる。														